

道路の如きは各藩互に攻防の關係上わざわざ屈曲不便なものを造つたので、整頓しないのも當然でしたが、治水に河川工事のみは随分昔から着手されてをつたものであります。我國には所謂

六十五大河川が

あつて、現在、改修工事着手のものが半数にも達しない有様です、之が爲め 年々水害を被つて經濟上の損害は莫大なものであります。

オランダの技師が日本に來た最初の目的は

水運開發であつたが、河川未修のため洪水被害の大なるを見て、遂に河川改修工事のみをやる様になつたのも之が爲めでせう。

明治になつてからの日本の土木工事としては鐵道工事が最初でありました、而して今日も鐵道工事が最も發達してをります。其次が治水工事で、港灣工事などは非常に遅れてをります。道路工事は最近のもので之も非常に遅れてをります。水力電氣工事なども遅く發達したのですが、今日の工事状態は中々進歩してをる様です。

明治二十四年十月の濃尾大地震に長良川堤防破壊の景



長良川堤防破壊